

学校法人向洋学園 宮崎ビジネス公務員専門学校			
授業科目名	刑事訴訟法①	担当者名	前田 裕司
開講年度・学期	2025年度 通年		
学科	大学進学科	年次	3年次
年間授業時間および単位数	週：2時間 合計：40時間	単位数：2	
科目区分	必修	授業形式	講義
実務経験	《関連実務経験等》 有		
授業の概要（実務経験を活かした教育内容）	<p>刑訴法判例百選に基づく事例検討を行って、刑事訴訟実務でどのようなことが争点となるのか、争点となる理由と争点に対する意見を学ぶ。事例検討にあたっては、講師の刑事弁護人としての長年の経験及び実務と理論の架橋と位置付けられた法科大学院教員10年の経験を生かして指導し、受講生の刑事実務の理解を深めるとともに、刑事訴訟法全体の知識の習得を目指す。</p>		
授業の到達目標	<p>(1) 刑事訴訟実務の理解を深める。 (2) 刑事訴訟裁判での争点が生じる理由とこれに対する自己の意見を論じることができるようにする。</p>		
授業計画	01～04 捜査の端緒と任意捜査 05～08 強制捜査 09～12 被疑者の権利 13～14 公訴の提起と訴因	15～16 公判手続 17～22 証拠 23～40 復習と終了試験 論点の整理	
成績評価の方法	<p>科目修了時の試験や小テスト、出席状況にて評価する。 評価比率（科目修了試験や小テスト等 70%、出席状況 30%） 成績評価の基準は5段階評価とする。 5（80点以上）、4（60点以上80点未満）、3（40点以上60点未満）、2（20点以上40点未満）、1（0点以上20点未満） 2や1の評定が出た場合は補講を行う。</p>		
授業外で行うべき学修（準備学習・事後学習等）	<p>日々の刑事裁判関係のニュースをチェックする。 刑訴法判例百選の各事例に目を通しておく。</p>		
使用テキスト	近畿大学テキスト 刑事訴訟法「改定版」山本正樹		
参考書・参考資料等	刑事訴訟法判例百選【第10版】 井上正仁、大澤裕、川出敏裕編 判例百選をテキストとして使用する。		
その他（学生に対する要望、メッセージ）	事例を通じて、どのような争点があるのかを学び、自身の結論と結論に至った理由をしっかりと考えることが重要である。		